

1月末の人口	
世帯数	584世帯
男	760人
女	769人
計	1,529人
(馬路 1,066人)	
(魚梁瀬 463人)	



広報 うまひ

昭和63年1月31日発行
 第二二六号
 編集 馬路村教育委員会
 印刷 安芸印刷



▲第6回村民駅伝競走大会(1月23日)

暮らしを守る消防活動

■自治体消防40周年・防火行政も充実■



火事が起きたり、急病人やけが人が出れば119番——消防活動は、わたしたちの日常生活に欠かせないものとしてすっかり定着していますが、市町村が運営する現在の自治体消防が発足してからこの3月で40周年を迎えます。これを機に、国民の生命や財産を守る消防の役割をふり返ってみましょう。



◀和気あいあい

高齢者問題意識調査

にみる 課題 下

調査対象は大正七年（昭和元年）生まれの村民。調査期間は昭和六十一年五月十六日から三十日までの二週間。教育委員会配布し、回収（率）は百二十三名（70%）。この調査の目的は、人生八十年時代と言われるその大きな流れの中で、生きがいとは？ 夫婦とは？のヒントを探ろうというものです。今回で最終回です。（高知新聞に掲載された内容を参考にする。）

経済観念

近い将来、高齢者は五人に一人の高い割合になる。その結果一つの家族の中で、また、社会全体の中で成壮年層の肩にかかる経済的負担は重く、厳しいものとなるだろう。

〔問14〕の生活費をどう考えるかに対し、「他人に頼らず自分で準備すべきだ」五九・三% 「社会保障で当然みるべきだ」一七・九%、「家族、子供がみるべきだ」六・五%の順。自立派が多いのと、家族・子供負担が意外と少ないのが特徴だ。

現実の「生活費を得る手段」〔問15〕では、「公的、私的年

質問と回答

数字は%で示してある。小数点第二位以下を四捨五入したため、合計が100%に過不足する場合がある。紙面の都合上、一部のみ掲載。

〔問14〕 老後の生活費についてどうお考えですか。

	(1つだけ○印)	
他人に頼らず自分で準備すべきだ	59.3	
社会保障で当然みるべきだ	17.9	
家族、子供がみるべきだ	6.5	
その他	3.3	
分からない	6.5	
無回答	6.5	

〔問22〕 高齢化対策としてこれだけとは望む施策は。

	(1つだけ○印)	
年金の増額	45.5	
老人医療の充実	19.5	
老人ホームなどの充実	6.5	
健康、体力を増進する対策	3.3	
生きがい対策	6.5	
仕事の場の拡大	4.9	
定年延長	1.6	
その他	—	
分からない	4.1	
無回答	8.1	

〔問28〕 あなたは今、幸せですか。

	(1つだけ○印)	
最高に幸せ	8.9	
まあまあ幸せだ	66.7	
やや不幸だ	8.1	
とても不幸だ	0.8	
考えたことがない	4.9	
分からない	1.6	
無回答	8.9	

金」六九・九%、「仕事」二四・四%、以下預金、財産、子供の順。

年金のトップは予想通りである。だが、それにしても一位と二位以下の段差の大きさが気になる。裏返せばそれだけ年金が老後の生計の上で大きなウェイトを占めているということだろう。まさに年金さまさま。実際、現在の公的年金制度は受給者に大きな恩恵を施しているのである。

さらに、「高齢化対策として望む施策」〔問22〕のトップに「年金の増額」を上げているの注目すべきだ。

老人はなるべく自立して、若い世代に負担をかけまい、という意識を持っている。しかし、

現実には年金は十分でなく、仕事もない。そこで、身内に寄ることからないためにも、とにかく年金制度の充実と仕事の確保を求めているわけだ。

「幸せ」とは

課題山積の高齢化社会である。意識調査は現状を数字で浮き彫りにした。では、現代のお年寄りは日々、不安いつばいの生活の中で、おびえながら暮らしているのだろうか。

意識調査の〔問28〕あなたは今、幸せですか。に対して、「

最高に幸せ」、「まあまあ幸せだ」と答えた人が七五・六%にも上る。

「健康」「経済」「家族」が幸せの三要素。一見、平凡で基本的な要素に集中しているようだが、戦争でこれらを受容できなかった世代には、素直に、そして実感としてこの三要素に関心が集中するのだろうか。

平和が続く、衣食住に不安は少ない。子供を戦争で奪われる悲しみもない。関心が個人的なものに偏るのもうなずける。

今の老人には地縁、血縁のきずながまだ根強く残っている。だが、核家族化等が進む今、

次の世代はそうはいかない。家族を基盤に支えられている幸福感がいつまで続くか疑問も残る。

昭和63年頭の所感

村の活性化を

めざして

馬路村長
西野眞司



明るい希望にみちた昭和六十二年の新春を迎え、皆様のご健勝とご発展を心からお喜び申し上げます。

顧みますと昨年は、一月の村議会議員選挙にはじまり、十一月末の知事選挙に終る選挙の年でもあり、又内政的には、国有林野事業の合理化問題に終始した年でありました。

年半ばから国の内需拡大策により、一時的に木材需要の伸びがあり、景気浮揚がうかがわれたのですが、村の活性化に結びつく状況に、ほど遠い現状であります。

止めどない様な過疎化が続くなかで、極力村の振興策をはか

り、活性化を求めて行かなくてはならないと、決意を新たにすべく次第です。

長い歳月を経て、工事中であった魚梁瀬公共用地も、いよいよ本年三月には一万四千平方メートルの台地が完成します。

これをいかに活用するか、村にとって大きな課題であります。

昭和六十三年度は、当面、台地内の道路舗装、植樹など重点的に環境整備をはかり、地域開発の拠点と致したいと考えます。

地域の方々のご意見も十分ふまえ、対応して参ります。

木の里づくり運動を提唱して四年を迎えますが、その中心である木工芸については、「馬路のあかり」「馬路の時計」につ

づく新商品第三弾として、テールウェア(木の洋食器)を開発、昨年十月に高知大丸で発表会を開き、好評を得ましたが、本年三月十一日から二週間、東京は有楽町阪急8Fコミュニティギャラリーで、群馬県上野村と合同で「山村から都会へ……木くぼり展」として展示会を開き、東京の商社、専門店、百貨店等への開路開拓を図ることにしています。

又、この機会に、木の里馬路村を、おおいに売り出そうと考えています。

肝心の林業の振興のためには引続き、林道網の整備も、図っていかなくてはなりません。

又、馬路村が将来、ただ単に杉の生産地にとどまらず、魚梁瀬杉の主産地を形成していくためには、林家の皆様方にも、ご協力をお願いしたい。

つまり適期間伐を実施し、優良材を育てると共に、山づくりを意欲をもって欲しいのです。

木材価格の低迷する今、山への投資は大変ではありますが、必ずいい時代も来ると確信するものです。

柚子生産については、本年は特に全国的に過剰気味ではあります。全国にその名を聞かせつつあります。引き続き農協を中心にした営業、集出荷体制を堅持したいと考えます。

このことが、ひいては生産地間競争に打ち勝つ、大きな要因になると考えます。

さて本年は辰年であります。辰は龍ともいわれます。龍にあやかり、村にとって昇龍の年となるよう、渾身の努力を傾注する所存であります。

村民の皆様も、引続き村政にご協力くださることをお願いし、年頭のご挨拶と致します。

今年も住みやすい村づくりをめざして
職員一丸となって頑張ります。

馬路村役場職員一同





▲たすきの舞



▲盆の舞



▲剣の舞

古来から馬路地区では天の神の信仰が行われてきました。それに伴って神楽も十二年目毎に演じられました。氏子はその神楽を楽しみにして、お金やお米をたくわえてきたのです。娯楽のない時代に氏子にとっては、信仰と安らぎの一日でした。



▲弓の舞

フオト ニユース

▶しまいわい



天の神の神楽



▲弓の舞



▼八男乙女の舞

神興渡御と浦安の舞

能登守平教経が奉斎した魚梁瀬熊野神社の例大祭が盛大に行われた。昔は神興渡御の前に鉄砲をうち、神興もしずかに進む慣習であったが、現在は天下ごめんの暴れ神興になりました。なお近年、中学生の女子による浦安の舞が復活され、鈴の音が鳴って、平安の里はひと時を神楽によいしれます。



ふるさと

いさいき



馬路熊野神社の神興渡御

明治の中期に上治辨次さんが神興一対を寄進して、その年から神興渡御が始まりました。しかし、次第に使用困難となり、昭和三十五年十月、上治兼正さんが新しい神興一基を寄進されました。新しい神興は十四人ずつぐものです。なお、新しく獅子舞復活の準備中です。



弓射式

旧正月四日には昔は弓祭りが行われていましたが、一時中断していました。この度、村の有志によって復活されました。八人の射手によって千八本の矢が放たれます。鬼の文字を書いた的に、矢があたると大鼓と共に歓声があがります。祭りが終わると村人は、的をうばい合っつちぎり、そのかからを門前に飾ります。

こどもの目

クローズアップ いま、子どもたちは

青少年育成馬路村民会議では、今回も募集した作文の中から二つをご紹介します。

共同生活の中で、子ども達がいきいきと学習に、奉仕活動にと取り組んでいます。また、同和学習を子ども達がどのようにとらえ、考えているのか。その一端が示されているように考えられます。

わたしたちの

馬路小学校



馬路小五年

式部 由里蘭

わたしたちの住んでいる、馬路村には、小学校が二つあります、その中の一つが、わたしたちの馬路小学校です。

馬路小学校は、ふく式で勉強している学級があります。私のいる学級も、四年と五年で、ふく式になっています。

ふく式は、先生がついていない時、自学をしなければいけないけど、自学力がつくし、友だちがふえて楽しいです。

ほかにもいろんな学級の人といっしょに何かすることといっ

たら、集会やそうじがあります。

集会には、体育、音楽、朗読

児童、放送があります。その中の朗読集会は、週に一回、金曜

日にあります。学年ごとに、じゅん番に、自分たちの学年の国

語の教科書にのっていて、なら

った、または、いまならつてい

るたんげんを、全校の前で朗読

する集会です。

そうじは、人数が少ないため

全校を、九はんにわけ、一年か

ら六年までみんなが、自分たち

のくいきをそうじします。

全校でそうじをするといったら、校区チリ拾いがあります。

これも、そうじのはんです。ですが、先生もはんにはいって

います。

校区チリ拾いでは、チリばき

みとピニールぶくろを持ち、決

められた区いきをゴミを拾って

歩きます。

東川や相名などの、学校から

とおいところは、役場のおじさ

んの車で、そこまで行き、かえ

りは拾いながら、学校まで歩い



▶ピニール袋いっぱいゴミ

て来ます。長いところで、三キロぐらい歩きます。

校区チリ拾いは、村をきれいにするだけでなく、足の運動にもなり、とてもいいことです。

四、五、六年だけですが、学校をきれいにすることは、ワックスがけもしています。

ワックスがけをする前には、教室の物を全部ろうかに出し、そこをそうじし、そうきんで、二回ぐらいきれいにふきます。

それが終わると、パケツにワックスをいれ、モップをワックスにひたし、モップをしぼって

一番おくの方から、たてにワックスをかけ、その横をやる時は、一目おいてかけます。

一目おいてかけるときは、まがつてうまくいかなかったりしました。それに、あわがついたら、そのあわをモップでのけなくてはなりません。

なぜかという、あわをそのままのこしておいたら、ワックスがかわいたとき、ぶつぶつが残るからです。

でも、次の日には、ワックスがかわいて、ろうかや教室はピカピカとても、気持ちがよく、やつてよかったと初めて思います。

馬路小学校には、上ばきをほかないはだしの人がだいぶいます。私の学級でも、はだしの人がほとんどです。はだしが好き

な私は、いつもはだしです。体にいいので、冬もはだし

います。しもやけができてかゆいのですが、ずつつづけています。ろうかが、とてもきれいなので、はだしでもとても気持ちがいいです。これからも、つづけるつもりです。

私は、そうじを全校でしたり、ワックスがけをして、ろうかも教室もピカピカの馬路小学校が大好きです。

だから、ピカピカをたやきないように、下の学年の人に、ワックスがけのやり方などを、わかるように教えてあげ、自分からすすんで、そうじなどをしていこうと思います。

＝校区チリ拾い＝

チリを見たら すぐ拾う

ひとりひとりが注意して美しい村づくりに
ご協力をお願いします。

部落問題を

学んで



魚梁瀬 内原 美穂
魚梁瀬 内原 美穂

なぜ、被差別部落が、できたのでしょうか。私はその原因を同和の学習することによって知りました。

私は部落の存在についても、部落の人に対する、差別があることも、中学一年の時、同和の時間に教えてもらうまで、ぜんぜん知りませんでした。

しかし、同和の学習を続けることで、いろんなことを知りました。

部落の子供が学校で、部落の子というだけの理由で、悪いことをやっただけで、思われる事実も知りませんでした。その子の気持ちを考えると、かわいそうでなりません。

しかも、先生に差別されるなんて、よけいにかわいそうです。その先生には、どの生徒も平等に接するように、態度を改めてほしいと思います。

一年の同和の学習で、もう一つ、心に残っていることがあります。

やはり部落出身の男の人で、ペンフレンドの女のひと、実際

していました。でも、その女の人の両親に反対され、女の人も離れていき、最後にはその男の人が、自殺してしまっただけです。私はその資料を読んだ時、涙がでそうでした。

男の人は遺書の中で、「くやしいよ」と何度も書いていました。

私にはその言葉が、忘れられません。その人の悔しい気持ちが、にじみ出ているような気がします。部落出身でなければ、こんなことには、ならなかったのです。

私がもし、その人の立場だったなら、同じように、どうしようもないくらいおちこみ、自殺を考えるかもしれません。

人を自殺に追い込むなんて、差別とは、恐ろしいものです。私は、この話を資料として、提供した男の人の両親は、とても偉い人達だと思いました。こういうことが、実際に我が子にあったことは、悔しかったです。誰にも、ふれられたくなか



つたかもしれません。それなのに、自らこの話を、資料にしてくれと言ってきたご両親は、本当に立派です。この話を学んで、部落の人がどういふ思いをしていたかを、私を含めて、多くの人が知ったと思います。

結婚という人生の大切な場面で、差別を受ける人の心の痛みを、同じ人間として、私達は知る必要があると思います。二年生になってからは、歴史的に差別は、どういふふうにつくられたかということも、学んでいます。

古代から、身分の違いはあつたけれど、豊臣秀吉の時代の身分制度により、四つの身分が作られ、さらに徳川幕府が六つに分けたということです。

こういうことは、小学校でも多少習っていたので、教えてもらう時も、わかりやすかったです。ええ、非人の人達は、まるで牛や馬のような扱いをされて、

住む場所も、決められていました。支配者だけが、いい思いをして、農民やえた・非人に、苦しさやつらさを、くくりつけたのです。

身分の低い人達に対する、同情や、あわれみの気持ちさえ、感じていなかったように思われます。それが後々にも、残ってきたのです。

今でも、部落の人達が、悲しい思いをしていることを、徳川時代の人は、想像もしなかったでしょう。

ただ一度、身分制度を作ったことにより、過去から現在へと、部落差別は残り、いつ完全になくなるのかわかりません。

しかし、これからは、私達の時代です。一人一人が部落問題について、正しい知識を持つことから始めて、時間をかけて、感情的な差別をも、乗り越えていくべきだと思います。

部落差別だけでなく、すべての差別がなくなり、みんなが平等に暮らせる世の中を、一日も早く、実現させたいものです。

差別をなくそう

- お互いに人権を大切にしよう
- 部落差別をなくそう
- いじめをなくして

明るい人間関係をつくろう

馬路村・馬路村教育委員会
馬路村同和教育研究協議会

馬路村の歴史と伝説



馬路熊野神社 ⑦

馬路公民館長 山中 巖

日本太夫 熊野神社へ面を寄進

馬路峠をとぼとぼと越えてくる一人の男がいました。その名は日本太夫といました。彼は熊野神社へ面を寄進してました。

彼は十三所妙見大権現(熊野神社)へ面を売ったため、この遠隔の地までやってきたのです。熊野神社の神職、大野家を訪れたのは昼も過ぎていました。「私は北陸の住人で日本太夫と申す者でございます。背負ってきた二つの面を買ってもらいたいと存じます。一面は伊弉諾命他の面は伊弉册命をかたどったもので、両面とも春日の御作でございます。」

「遠路わざわざご苦労に思います。当家も購入いたしたいのは山々であります。恥ずかしいながら貧乏いたして購入する銭がありません。」商談は夜おそくまで続きましたが成り立ませんでした。一夜を過ぎた日本太夫は、仕方なく馬路村を立ち去るのです。日浦、市谷を経て昨日通った馬路峠へさしかかりました。彼はなんとなく足が重く感じられ身体がだるくなりました。それでも勇気をふるって一歩一歩踏

みしめて登りました。その時です。一陣の風が吹き渡ると、天から雪ならぬ「火の粉」が降りはじめたのです。彼は神に祈りを捧げ神意を伺いました。

「これから先へは行くことができない」という神意でした。彼は帰途をあきらめ、引き返して再び大野家を訪れたのです。そして両面を妙見宮へ寄進する決意をかためました。

「妙見宮の神霊がこの両面に宿って離さないのをごさいます。この上は両面とも妙見宮へ奉獻いたしと存じます。ご受納ください。」

大野神官はその好意に感激して涙をこぼさんばかりでした。この時から両面は、熊野神社のご神宝として現在に伝えられています。

伊弉諾命・伊弉册命

さて、伊弉諾命と伝えられる面は、縦二十二センチ、横十六センチで鬼面です。胡粉地に朱漆の彩色をし、頭部、あご、眉を黒漆で描いて、目、歯、牙に金具を使用し、耳は獣耳に作ってあります。眉は能面の飛出風に三日月型、口は癒見型です。伊弉册命と伝えられる面は、縦二十センチ、横十三・五センチで、胡粉地に朱漆彩色、皴の

部分を黒漆で描き、目の周囲を細く金泥で描いてあります。白眼部分を削りぬき、頭部を冠型に描いた特色ある造物です。これらの面は、神楽・鎮め様などに長く使用されてきました。が剝落もなく、ご神宝としてふさわしい名品で、村の文化財にも指定されています。

なお日本太夫は日浦大屋の地に土着し、大屋太右衛門と改名しました。墓地は日浦の岩城家の西上段にあります。また大屋の若宮は、熊野神社の境内に立派な社殿が建てられて、遷宮を執行し、面主神社として祭祀を厳修しています。

馬路村の文化財

不動明王立像(重要文化財)

不動明王は像高百・五センチ。椀材の一本造で、内剃はない。右肘を張って剣をとり、左手を垂下させて絹索をとって岩座に直立する。頭頂に大ぶりの蓮華をおき、頭髮の巻毛の隙間に頭飾をのぞかせ、弁髪を左肩にたらす。両眼をみ開き、上歯で下唇をかみ、両辺より牙を下出する。頬骨を高く回辺に深みぞをつくる誇張の表情。体部では山寺像としては比較的細い仕上げで、彩色はほとんどすれて白色顔料が目立っている。



▶日本太夫の墓地(日浦)



スポーツで
豊かな心と
健康を

第六回馬路村民駅伝

森林組合A逆転優勝

「役場Aの二連覇ならず、森林組合A優勝に返り咲く！」
一月二十三日、第六回馬路村民駅伝競走が行われ、一般十一チーム、中学生四チームが参加。今回魚梁瀬中学校の不参加により、運営等を初めて合同で行いました。

当日は晴天にも恵まれ、山あいを力走する選手達に、沿道から盛んな声援が送られました。前半は、花の一区を制した魚

梁瀬体育会が、そのまま一位でゴールイン。二位には14秒遅れで魚梁瀬管林署がつけ、前回優勝の役場Aは二区、三区が共に

期待を裏切り優勝に赤信号。優勝候補の森林Aは三位につけ、勝負は後半の二区間へ。
再スタートの四区では、役場Aがトップにたつもつかの間、最終区では森林Aのエース・浦木義伸が区間タイの力走でトップを奪いゴールイン。
結局、総合31分54秒で森林A

が前回の屈辱を晴らし優勝しました。二位には魚梁瀬体育会が入りました。
なお、第二区では、田中正義（農協青年部）が九人抜きを演じ、7分0秒の区間新記録を出しています。
敢闘賞は、魚梁瀬小学校と馬路子ども会が受賞しました。

村体育会表彰

62優秀賞

昭和六十二年中のスポーツ活動で、馬路村体育会から優秀賞を受けた個人・団体は次の方々です。これからも、がんばってください。

(一)内は大会時。

●個人の部

▽小原昌信(窪川高校教員)

○第42回国体秋季大会

成年男二百廿一 21秒99

▽笹岡大輔(安芸高校二年)

○県高校体育大会

弓道——第三位

○四国高校選手権大会

弓道——第一位

▽乾 正一(安芸高校二年)

○高新駅伝競走大会

第三区(四キロ)

区間一位——12分21秒

▽全国高校駅伝県予選等

○笹岡真吾(安芸高校三年)

○高新駅伝競走大会

第八区(七キロ)

区間二位——24分13秒

●団体の部

▽馬路体育会野球部

○安芸郡市町村軟式野球優勝

○県大会へ二回出場等

完走15チーム

選手名の下の○数字は区間順位
●は新記録 △はタイ記録

区間	総合	1区	2区	3区	4区	5区
距離等	8.9km	村民運動場～管林事務所 1.3km	管林事務所～相名 2.0km	相名～熊野神社 1.3km	熊野神社～相名会館 1.7km	相名会館～村民運動場 2.6km
大会記録		馬中3A 57 30分35秒	西野千晶 59 4分33秒	大野登典 57 6分42秒	田中佳代子 4 4分53秒	丸山和伯 57 5分27秒
一般の部		森林組合 58 30分37秒	竹内 仁 58 4分09秒	清岡明德 59 7分10秒	浦木義伸 61 4分18秒	田中正義 60 5分52秒
①森林組合A	31分54秒	清岡 真治 ③ 4.31	小松 博 ③ 7.42	上総 達也 ① 4.44	清岡 興徳 ② 6.19	浦木 義伸 ③ 8.38
②魚体育会	32・17	島田 朝彰 ① 4.23	竹内 仁 ② 7.22	田辺 和男 ③ 4.56	橋口 福男 ④ 6.21	瀬戸口英昭 ④ 9.15
③馬路中3A	33・52	尾谷 暁 ④ 4.59	乾 真琴 ⑥ 8.02	小松まどか ⑨ 5.27	樋口 達也 ③ 6.20	笹岡 和仁 ② 9.04
④魚管林署	34・31	窪田 浩二 ② 4.26	後藤 正美 ④ 7.44	門脇 博幸 ② 4.45	森脇 和正 ⑫ 7.26	坂本 和隆 ⑩ 10.10
⑤役場A	34・52	浦木 康徳 ④ 4.45	山崎 出 ⑪ 9.02	岡田 元生 ⑪ 5.48	清岡 博之 ① 6.08	清岡 明德 ③ 9.09
⑥農協青年部	35・06	乾 栄美 ⑬ 6.03	田中 正義 ● 7.00	木下 英年 ⑥ 5.20	畠中 泰司 ⑤ 6.29	東谷 望史 ⑪ 10.14
⑦魚梁瀬小A	35・17	家野本孝行 ⑨ 5.07	乾 貴史 ⑧ 8.08	川田 由紀 ⑤ 5.18	五百蔵 隆 ⑦ 6.40	内原 章照 ⑧ 10.04
⑧役場B	35・37	上治 堂司 ⑤ 4.59	藤原 茂史 ④ 7.44	久保 可奈 ⑥ 5.20	久保 敏雄 ⑬ 7.33	岡林 功 ⑥ 10.01
⑨馬子供会B	35・57	清岡 長人 ⑫ 5.18	林 義人 ⑦ 8.04	岡田 透 ⑩ 5.31	田中 諭 ⑧ 7.02	小松 孝裕 ⑦ 10.02
⑩馬路中2	36・31	伊藤 美央 ⑦ 5.00	中河 緑子 ⑫ 9.19	中岡 恭子 ④ 5.05	五味 里加 ⑨ 7.08	大野 康二 ⑤ 9.59
⑪魚梁瀬小B	37・01	山中 直史 ⑩ 5.09	山崎 友和 ⑩ 8.48	湯浅友紀子 ⑧ 5.23	小原 進 ⑩ 7.09	吉田 和加 ⑫ 10.32
⑫森林組合B	37・46	岩田 善稔 ⑬ 5.41	谷井 恵夫 ⑫ 9.19	森崎 哲明 ⑬ 6.03	大野 源人 ⑥ 6.36	清岡 哲也 ⑨ 10.07
⑬馬路中1	39・19	西野 百絵 ⑧ 5.01	伊吹 文香 ⑮ 10.25	古田まどか ⑬ 5.56	萩 由利 ⑪ 7.17	中屋 容子 ⑬ 10.40
⑭馬子供会A	40・32	国久 貴弘 ⑬ 5.28	廣瀬 忍 ⑬ 10.01	廣瀬 心 ⑬ 6.01	山本 淳志 ⑬ 8.03	笹岡 卓洋 ⑫ 10.59
⑮馬路中3B	40・36	木下 法子 ⑪ 5.16	乾 和也 ⑨ 8.46	西野 里紗 ⑫ 5.49	乾 愛佳 ⑭ 7.48	東谷 一幸 ⑮ 12.57

教育相談所だより

どんな子どもが育っているか

子ども達の骨折事故がなかなか減らないことを心配された東京都の小・中学校の先生方が、二～三年前その原因を調査したところ、どうも家庭における偏食ぎみの食事に原因があるのではないかと発表され、お母さん方に警告を与えたことがありました。また先年、A新聞に次のような記事ができました。

子ども達に異変

「北海道の伊達市で二～三歳の子ども達を遊ばせていたお母さん方が、子ども達の坂道を登る様子を見ていると、何人かの子どもが前傾姿勢をとらず、坂道に対して直角の姿勢で登ろうとするため、後にバタンと倒れてしまうのを発見した。

また、ある子どもが鼻の中が痛いと言って泣きやまないで、病院で調べてもらったところ、鼻の中に大豆が入っており、すでに芽を出していた。そこでお母さんは、その町の日赤病院の医師達と共同でその原因を調査した。

親子のスキンシップ

その結果、その子ども達は産まれた直後から一～二歳になるまでの間、母親とのスキンシップや、コミュニケーションが大変すくなかったという共通の成育歴を持っており、そのため知覚が十分に育たなかったのではなかろうか、これがどうも原因らしいということがわかった。」というものでした。

問題行動の原因

また、昭和五十七年以来、戦後最高の発件数のまま、その内容も最悪の事態をつづけている少年非行や、相変わらず多発している少年達の家庭内暴力、登校拒否、校内暴力等の問題行動の原因も、不満や欲求をおさえたり、耐えることができない性格の少年が増加したからです。

そのような少年を育てた大半の責任は、親や家庭であると指摘されています。

資料 青少年育成国民会議編
「三つ子の魂百まで」

あがった、あがった、一月二十四日、親子が思い思いの自作のたこを手に村民運動場に集まりました。

これらのたこは、昨年十二月二十六日「親子たこづくり教室」で作られたものが大部分。

あげる前から糸の調子を取るお父さん。あがらないのにただ走る子ども達。見ている先生方はあっちこっち。親の必死の努力も、子ども達はあがったこのところへ集合。でも、苦労のかいあって折からの良風にも乗り、みんなのたこが空高く舞いあがりました。

本当におつかれさまでした。

▶三世代たこあげ



天までとどけ
親子たこあげ大会

親子のふれあい



▶真剣なまなざし

木工芸教室 = 馬路中学校 =

一月二十四日、午前中馬路中学校技術科室において、清岡博基さん（馬路木工芸グループ）を招き、馬路村における村おこし事業の推進と、工芸グループの活動状況のお話がありました。

林業立村の本村では、木材をぬきには村おこしは考えられないとのこと。

午後からは、同グループの小島忠義さんも加わって、実際に木のカレンダの製作に挑戦。

両人の指導のもと、糸のこを初めて使うと言っていた女子生徒の作品もりっぱなもの。三段重ねのため、ちよつと立たなかつたりうまく合わなかつたりしたものの上出来でした。

時間内に作品も完成し、本当に楽しい一日でした。

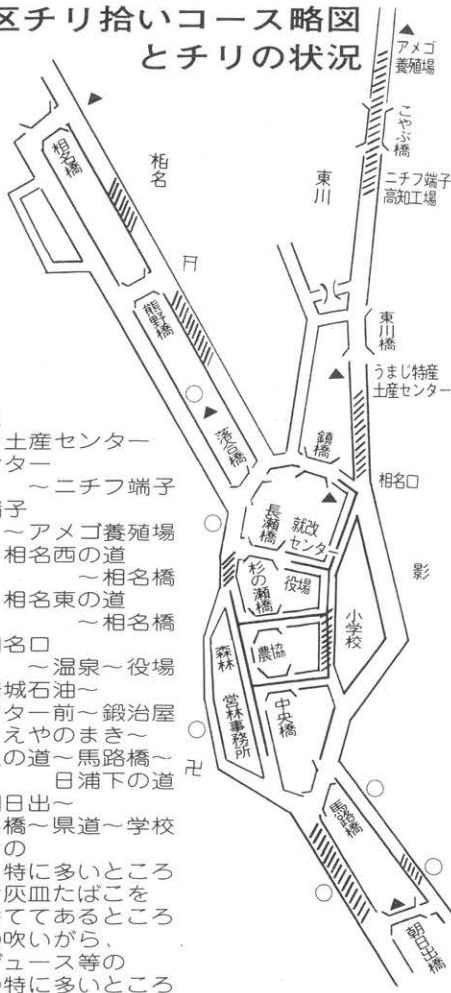
チリもつもれば

富士山を越す

チリを拾って十年あるく

馬路小学校

校区チリ拾いコース略図とチリの状況



- コース
- 1, 相名口～土産センター
 - 2, 土産センター～ニチフ端子
 - 3, ニチフ端子～アメゴ養殖場
 - 4, 落合橋～相名西の道～相名橋
 - 5, 落合橋～相名東の道～相名橋
 - 6, 学校～相名口～温泉～役場
 - 7, 学校～岩城石油～就改センター前～銀治屋
 - 8, 中央橋～えやのまき～日浦上の道～日浦下の道
 - 9, 学校～朝日出～朝日出橋～県道～学校
 - 10, 空きカンの特に多いところ
 - 11, 車備付け捨てたジュースのふたの特に多いところ

「校区チリ拾い」が児童会の活動となったのは、昭和五十四年二月のことである。

ことのおこりは、この年の三月に卒業した六年生が、「在校生に誇れる何かを残して卒業したい。」という考えから「チリを見たらすぐ拾う」という目標を決めたことに端を発している。

この考えを実行にうつしたのが一月十八日、日よう日のことであった。この日、朝十時から

十一時まで、先生を入れて十四人が、日浦と影の主な道路をまわった。

十四人十四袋はたちまち「おかし紙袋とジュースの空きんでいっばいになった。」「きたないチリを拾うのは大変なことでした。がんばってやっていますうちに、きれいになっていくのがうれしくもなり「すてたらいかん」ということもわかってきたようです。」

また、吉本光典君は「次々にみんながぼくたちのまねをしてひろいできました。その中の笹岡かずとという保育の人がひろってくれました。かずとは、きたないものでも、すすんでひろ

これは、当時の担任白石洋子先生の記録である。一月二十八日の佐竹美香さんの日記を読んでみると、

「今日はちり拾いをした。まさかこんなにたくさんあるとは思ってみませんでした。先生を入れて五人で五ふくろ(一班)だから腹が立ちました。でも、その中に少しは私のすてたチリがあるんだと思うと、はずかしい気がしました。」

また、吉本光典君は「次々にみんながぼくたちのまねをしてひろいできました。その中の笹岡かずとという保育の人がひろってくれました。かずとは、きたないものでも、すすんでひろ

つてくれます。」と書いている。その和仁君はもう中学を卒業しようとしている。

当時、役場が配っていたチリ袋がはりさける程いっばいになった十四袋を、そのまま月よう日の児童集会に出て、全員に訴えたのがきっかけとなって、校区チリ拾いが始まった。

昭和五十三年卒業生から数えて、今年の六年生が十回目の卒業生となる。

この間、児童数の一番多い時が、昭和五十四年度の九十一人、少ない時が、六十年年度の四十二人であり、これまでのチリ拾い参加延べ総数は六百六十六人と

拾ったジュース等空き類の平均の長さを十二センチとする、一回に一袋七十個強が十袋、年間平均四回強として計算すると、拾った空き類の長さは、三千メートルをはるかに越えている。

捨ては拾い十年、小さな子ども達の手は、村の環境美化の一環を背負いつづけてきていることになる。

継続は力なりというけれど、空かん等チリが、今後も延びつづけるのを何とかしたいものである。

一月十二日の校区チリ拾いのあとの日記に「チリが多かったです。はいざらをまいたように、

一ヶ所にかたまつて、たばこがおちていました。」「きょうの校区チリ拾いは大変だった。なんたって三ふくろいっただからです。それでもまだまだ出てくるので、はがいたらしくなりました。」

児童会新聞「なかも」では、「毎回少しずつ少なくなっているチリが、今回はへつておらず、二ヶ所ほどで、かんのふくろが約三ふくろもあつた。

捨てるのはとても簡単な事だけれど、拾う方は簡単ではありません。ひとつくらい」と思い捨てるのをくり返したり、それをやる人がたくさんいると、「チリもつもれば山となる」という言葉どおりになってしまいました。

と訴えている。それでも、不用意にポイと捨てる子どもがいないわけではない。

子どもから大人まで、道路にものを捨てないことを合言葉とし、村を利用していたく、村外の方々にも、ご協力を願って、チリのない美しい村づくりを推進していきたいものである。

なお、二月二十三日(火)には、馬路小学校が十周年を記念した「校区チリ拾い」を計画しているので、みなさんのご協力をよろしく。

税務署
所得税の確定申告
 二月十六日から三月十五日

昭和六十二年分の所得税の確定申告は、二月十六日から始まります。

申告期限は、三月十五日ですが、期限間近になりますと税務署は大変混雑し、落ちついて相談できなかつたり、長時間お待ちいただくようなことになりかねませんので、確定申告はできるだけ早めにお済ませください。



また、確定申告による所得税の納期限は、申告期限と同じ、三月十五日までです。期限内に納税を済ませてください。

納期限を過ぎますと、未納となつている税額に対し年十四・六パーセント（五月十五日までは、年七・三パーセント）の延滞税がかかります。なお、一度に納められないと

きは、確定申告で納めることとなる税額の二分の一以上を三月十五日までに納め、残りの税額は五月三十一日まで延納することができます。

ただし、延納期間中は、延納する税額に対し年七・三パーセントの利子税がかかります。

こんな方は確定申告を

- 商売をしている人。
 - 賃貸料や権利金などの収入のある人。
 - 土地や建物などを売った人。
 - 個人から贈与を受けた財産の合計額が六十万円を超える人。
 - サラリーマンでも給与以外の所得が二十万円を超える人。
- 給与を二カ所以上から受けている人。

給与収入が、一千五百万円を超える人です。

正しい申告と納税を必ず、三月十五日までに行ってください。

なお、馬路村役場総務課では

平日 午前九時～ 四時
 土曜日 午前九時～ 十二時

の間相談を受けています。詳しくは、総務課（☎四一二一一）税務係までお問い合わせください。



四国電力
**配線工事を
 される時は**

新築してあらたに電気を使用される時や、ルームエアコンなどの大型機具を取り付けられる時は、必ず申込みの手続きをおとりください。

お申込み手続きにつきましては、お客さまから配線工事を電気工事店に依頼します。そうすれば電気工事店がお客さまにわかりまして、工事の申込み手続きを行ってくれます。そして、四国電力と電気工事店は、それぞれに引込線や屋内配線の工事をいたします。

その後工事ができあがると、四国電力では安全に電気をご使用いただけるかどうか調査いたします。

手続きをされずに工事をされますと、電圧が下がって器具が十分に使えなかつたり、漏電や火災の恐れがあります。

交通事故のご相談は
 お気軽にどうぞ
 無料でご相談に応じております

午前9時半～午後4時40分（平日）
 土曜日は正午まで（第2・第3土曜日は休みます）
 ◎専門の相談員が親身になってご相談に応じます
 ◎弁護士相談日：毎月第1金曜日午後1時～4時

社団法人日本損害保険協会
高知自動車保険請求相談センター

高知市本町2-1-6 安田火災高知支店ビル2階
 （電停大橋通東）高知調査事務所内
 ☎0888-25-0318(直通) 0888-25-0315
 電話のご相談もお受けします

交通災害共済に
加入しましょう

共済掛金	災害見舞金
1人あたり1年間	死亡80万円
600円	傷害 最高14万円より 最低2万円まで

申込期間…昭和63年3月31日まで
 申込先…各部落の婦人会の会員が勧誘にまわりますので申し込みください。また、役場総務課でも受付しています。
 共済期間…昭和63年4月1日から昭和64年3月31日まで。



◀和気あいあい

高齢者問題意識調査

にみる 課題 下

調査対象は大正七年（昭和元年）生まれの村民。調査期間は昭和六十一年五月十六日から三十日までの二週間。教育委員会配布し、回収（率）は百二十三名（70%）。この調査の目的は、人生八十年時代と言われるその大きな流れの中で、生きがいとは？ 夫婦とは？のヒントを探ろうというものです。今回で最終回です。（高知新聞に掲載された内容を参考にする。）

経済観念

近い将来、高齢者は五人に一人の高い割合になる。その結果一つの家族の中で、また、社会全体の中で成壮年層の肩にかかる経済的負担は重く、厳しいものとなるだろう。

〔問14〕の生活費をどう考えるかに対し、「他人に頼らず自分で準備すべきだ」五九・三% 「社会保障で当然みるべきだ」

一七・九%、「家族、子供がみるべきだ」六・五%の順。自立派が多いのと、家族・子供負担派が意外と少ないのが特徴だ。

現実の「生活費を得る手段」〔問15〕では、「公的、私的年

質問と回答

数字は%で示してある。小数点第二位以下を四捨五入したため、合計が100%に過不足する場合がある。紙面の都合上、一部のみ掲載。

〔問14〕 老後の生活費についてどうお考えですか。

(1つだけ○印)	
他人に頼らず自分で準備すべきだ	59.3
社会保障で当然みるべきだ	17.9
家族、子供がみるべきだ	6.5
その他	3.3
分からない	6.5
無回答	6.5

〔問22〕 高齢化対策としてこれだけとは望む施策は。

(1つだけ○印)	
年金の増額	45.5
老人医療の充実	19.5
老人ホームなどの充実	6.5
健康、体力を増進する対策	3.3
生きがい対策	6.5
仕事の場の拡大	4.9
定年延長	1.6
その他	—
分からない	4.1
無回答	8.1

〔問28〕 あなたは今、幸せですか。

(1つだけ○印)	
最高に幸せ	8.9
まあまあ幸せだ	66.7
やや不幸だ	8.1
とても不幸だ	0.8
考えたことがない	4.9
分からない	1.6
無回答	8.9

金「六九・九%、「仕事」二四・四%、以下預金、財産、子供の順。

年金のトップは予想通りである。だが、それにしても一位と二位以下の段差の大きさが気になる。裏返せばそれだけ年金が老後の生計の上で大きなウェートを占めているということだろう。まさに年金さまさま。実際、現在の公的年金制度は受給者に大きな恩恵を施しているのである。

さらに、「高齢化対策として望む施策」〔問22〕のトップに「年金の増額」を上げているの注目すべきだ。

老人はなるべく自立して、若い世代に負担をかけまい、という意識を持っている。しかし、

現実には年金は十分でなく、仕事もない。そこで、身内に寄ることからないためにも、とにかく年金制度の充実と仕事の確保を求めているわけだ。

せっかくの老人の自立意識を無駄にしないだけの社会作りが必要といえよう。

「幸せ」とは

課題山積の高齢化社会である。意識調査は現状を数字で浮き彫りにした。では、現代のお年寄りは日々、不安いつばいの生活の中で、おびえながら暮らしているのだろうか。

意識調査の〔問28〕あなたは今、幸せですか。に対して、「

最高に幸せ」、「まあまあ幸せだ」と答えた人が七五・六%にも上る。

「健康」「経済」「家族」が幸せの三要素。一見、平凡で基本的な要素に集中しているようだが、戦争でこれらを受容できなかった世代には、素直に、そして実感としてこの三要素に関心が集中するのだろうか。

平和が続く、衣食住に不安は少ない。子供を戦争で奪われる悲しみもない。関心が個人的なものに偏るのもうなずける。

今の老人には地縁、血縁のきずながまだ根強く残っている。だが、核家族化等が進む今、

次の世代はそうはいかない。家族を基盤に支えられている幸福感がいつまで続くか疑問も残る。

おめでとう

20歳の出発

S63. 1. 2成人式



迫ってくる 大型車の後輪

馬路駐在所



今年にはいり田野町内の狭い町道で、通園中の保育園児が、左折する大型車に巻き込まれて死亡するという痛ましい事故が発生しました。

また奈半利町でも、小学校一年生が大型車にひかれて、足の骨を折るといふ事故が発生しています。いずれの場合も、大型車の運転手は事故に気が付いていません。

特に大型車の場合は、交差点での右左折の際に、後輪が前輪より内側を通るといふ内輪差が大きいため、交差点付近で子ども等を見かけた場合は、軽くクラクションを鳴らして合図を送るなど、事故防止につとめてください。

また、保育園児、小学生のお子さんがおられる家庭では、子ども達が道路で遊ばないように注意をしてください。

馬路・魚梁瀬



琴の友琴を語りて年忘れ
喜美栄
短日の平穩なりし峡部落
銀杏散り風にさまよい
うずくまる

清子

空港に夫を送りし冬の雨
日々絞る柚子東京に行く夫も

千鶴子

月光す湯槽極楽境地なり
長き夜や夫には置かず

柿を食べ

眸

萬紅葉心ひらかぬ立話
冬耕の一畝長き入日かな

うた子

初霜を見つつ身心引き緊る

百合子

祭すみ主の炊きし牡丹鍋
返事する棚の内なる猪の鼻

雅子

桐落葉踏みて通りにて振り返る
峡の里木炭町で買って来た

善心

近道は草の実の道ねこの道
朝露の自作の菊を捧げけり

麗山子

障子あく冬至明りに不動尊
ふる里は杉山檜山懐手

ご出生おめでとうございます

父	前田 博志	母	紀子	赤ちゃん	続柄	生年月日	部 落
	田中富二夫	和 惠	未 耶 美	長女	62・12・10		日 浦
	山下 義勝	恵 子	晃	二男	62・12・17		影
	乾 準治	まるみ	貴美子	三女	63・1・7		魚梁瀬
			長女	長女	63・1・30		相 名

ごめい福をお祈りします

氏 名	河平 繁井	性別	女	年令	87	死亡年月日	62・12・22	世帯主	繁井 本人	続柄	本人	部 落	中ノ川
	五百蔵武士		男		67		63・1・3		武士 本人		本人		魚梁瀬